

解禁日時:2021年 5月25日(火)午前8時(日本時間)

プレス通知資料 (研究成果)



国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

報道関係各位

2021年5月21日

国立大学法人 東京医科歯科大学

「健康な歯がうつを予防する」 — 自分の歯が1本多いと、うつ症状得点が0.15点減少 —

【ポイント】

- 口腔と精神的健康の相互の関連が報告されていますが、因果関係は明らかではありませんでした。
- 米国ではむし歯予防のために水道水フッ素化^{*1}が実施されており、導入時期や人口カバー割合が地域で異なります。この差を利用し、子どもころの地域の水道水フッ素化で歯が守られることが、大人になってからのうつ症状を予防するか分析しました。
- その結果、子どもころの水道水フッ素化カバー割合が高いと、大人になってから自分の歯が多く残っており、歯が1本多く残るごとにうつ症状得点が0.15点低くなることが明らかになりました。
- 自分の歯を多く保つことがうつの予防になる可能性が示されました。

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科国際健康推進医学分野の松山祐助教の研究グループは、ラドバウド大学の Stefan Listl 教授、ヴッパータール大学、キングス・カレッジ・ロンドンとの共同研究で、自分の歯が多いとうつ症状が少ないという口腔と精神的健康の因果関係を明らかにしました。この研究は文部科学省科学研究費補助金のもとでおこなわれたもので、その研究成果は、国際科学誌 Epidemiology and Psychiatric Sciences(エビデミオロジー・アンド・サイキアトリック・サイエンス)に、2021年5月25日午前0時(英国夏時間)にオンライン版で発表されます。

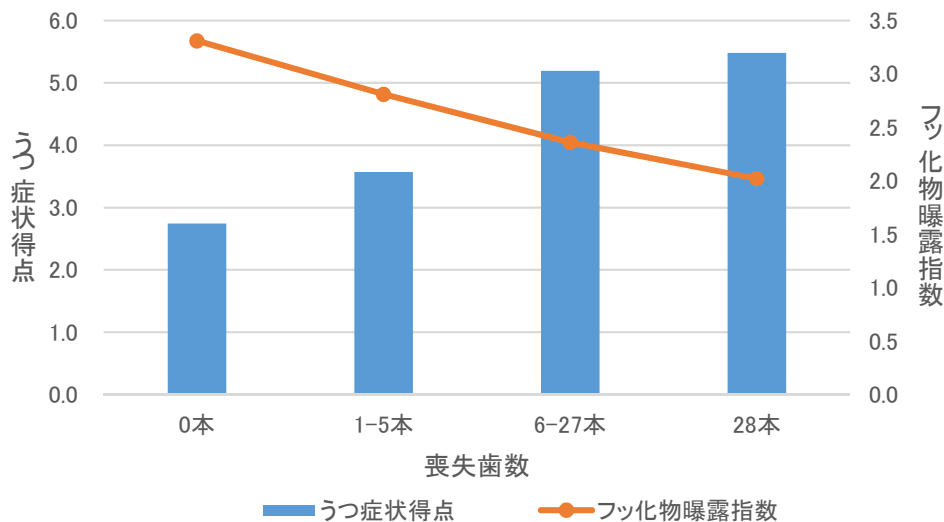


図. 喪失歯数ごとのうつ症状得点の平均値と水道水からのフッ化物曝露指数*の平均値
*5-14歳の10年間に於ける地域の水道水フッ化処理人口カバー割合の合計

【研究の背景】

口腔と精神的健康の相互の関連が報告されています。しかし、口腔の健康(原因)が精神的健康(結果)に影響するかどうか調べるには社会経済状況や健康関心度など様々な背景因子を考慮する必要があり、これまで因果関係は明らかではありませんでした。米国ではう蝕(むし歯)予防のために水道水フッ化処理が実施されており、導入時期や人口カバー割合が地域で異なります。本研究は、この差を自然実験(公共政策や災害などの外的要因が、ある要因を変化させている状況)ととらえ、水道水フッ化処理という外的要因で守られた歯がうつ症状を減らすか明らかにすることを目的としました。

【研究成果の概要】

米国の Behavioral Risk Factor Surveillance System (BRFSS) のデータを分析しました。2006, 2008, 2010年調査のいずれかに参加した人のうち、1940-1978年に生まれた169,061人のデータを分析しました。永久歯が生える年齢に相当する5-14歳の10年間に於ける地域(郡, county)の水道水フッ化処理人口カバー割合を合計し、水道水からのフッ化物曝露の指標としました。

分析の結果、5-14歳のときの水道水からのフッ化物曝露は大人になってから自分の歯が多く残っていることに強く関連しました。歯を1本失うごとに、うつ症状得点(PHQ-8得点*)が0.146点(95%信頼区間 0.0008, 0.284)高くなることが明らかになりました。また、統計的に有意ではないものの、歯を1本失うごとに、中等度以上のうつ症状(PHQ-8得点10点以上)がある人の割合が0.81パーセント・ポイント(95%信頼区間 -0.12, 1.73)増えることが明らかになりました。

【研究成果の意義】

口腔疾患は多くの人にみられる病気で、日本でも約4000万人に未治療のう蝕があると推計されます。一方

で、口腔疾患はフッ化物応用の普及、砂糖摂取の減少、禁煙環境の整備などで予防可能です。本研究から、自分の歯を多く保つことはうつ予防にもなる可能性が示されました。

* Patient Health Questionnaire-8 depression scale; 0 から 24 の値をとり、得点が高いほどうつ症状が重度であることを示す

【用語解説】

※1 水道水フッロリデーション う蝕予防のため、水道水中のフッ化物イオン濃度を緑茶に含まれるのと同じくらいの濃度に調整する保健施策。海外では 70 年以上前から実施されており、効果と安全性は科学的に証明されている(米国歯科医師会, 2018)。

【論文情報】

掲載誌: Epidemiology and Psychiatric Sciences

論文タイトル: Causal effect of tooth loss on depression: evidence from a population-wide natural experiment in the United States

【研究者プロフィール】

松山 祐輔 (マツヤマ ユウスケ) Yusuke Matsuyama

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

国際健康推進医学分野 助教

・研究領域

公衆衛生、社会疫学、歯科疫学

【問い合わせ先】

<研究に関すること>

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

国際健康推進医学分野 松山 祐輔(マツヤマ ユウスケ)

TEL:03-5803-5189 FAX:03-5803-5190

E-mail:matsuyama.hlth@tmd.ac.jp

<報道に関すること>

東京医科歯科大学 総務部総務秘書課広報係

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

TEL:03-5803-5833 FAX:03-5803-0272

E-mail:kouhou.adm@tmd.ac.jp